

温泉の成分

- 源泉名 村山温泉
- 泉質 メタほう酸
- 泉温 22.7℃
- 温泉の成分 1kg中に含有する成分、分量及び組成

(1) 陽イオン				
成分名		ミリグラム	ミリバル	ミリバル%
水素イオン	H ⁺	0.1未満	0.00	0.00
リチウムイオン	Li ⁺			
ナトリウムイオン	Na ⁺	29.2	1.27	90.15
カリウムイオン	K ⁺	0.4	0.01	0.73
アンモニウムイオン	NH ₄ ⁺			
カルシウムイオン	Ca ²⁺	2.0	0.10	7.11
マグネシウムイオン	Mg ²⁺	0.2	0.02	1.17
アルミニウムイオン	Al ³⁺	0.1未満	0.00	0.00
マンガン(Ⅱ)イオン	Mn ²⁺	0.1未満	0.00	0.00
鉄(Ⅱ)イオン	Fe ²⁺	0.1未満	0.00	0.00
鉄(Ⅲ)イオン	Fe ³⁺	0.2	0.01	0.84
銅(Ⅱ)イオン	Cu ²⁺			
鉛イオン	Pb ²⁺			
亜鉛イオン	Zn ²⁺			
カドミウムイオン	Cd ²⁺			
ストロンチウムイオン	Sr ²⁺			
バリウムイオン	Ba ²⁺			
クロムイオン	Cr ³⁺			
陽イオン計		32.0	1.41	100.00

(2) 陰イオン				
成分名		ミリグラム	ミリバル	ミリバル%
フッ素イオン	F ⁻	0.1未満	0.00	0.00
塩素イオン	Cl ⁻	2.7	0.08	5.30
硫化水素イオン	HS ⁻	0.1未満	0.00	0.00
硫化物イオン	S ²⁻	0.1未満	0.00	0.00
チオ硫酸水素イオン	HS ₂ O ₃ ⁻			
チオ硫酸イオン	S ₂ O ₃ ²⁻			
硫酸水素イオン	HSO ₄ ⁻	0.1未満	0.00	0.00
硫酸イオン	SO ₄ ²⁻	2.5	0.05	3.62
メタ亜ヒ酸イオン	AsO ₂ ⁻	0.1未満	0.00	0.00
炭酸水素イオン	HCO ₃ ⁻	57.5	0.94	65.38
炭酸イオン	CO ₃ ²⁻	6.9	0.23	15.96
メタケイ酸水素イオン	HSiO ₃ ⁻			
メタケイ酸イオン	SiO ₃ ²⁻			
メタホウ酸イオン	BO ₂ ⁻	5.3	0.12	8.65
水酸イオン	OH ⁻	0.3	0.02	1.10
リン酸二水素イオン	H ₂ PO ₄ ⁻			
リン酸水素イオン	HPO ₄ ²⁻			
リン酸イオン	PO ₄ ³⁻			
沃素イオン	I ⁻			
臭素イオン	Br ⁻			
亜硝酸イオン	NO ₂ ⁻			
硝酸イオン	NO ₃ ⁻			
陰イオン計		75.2	1.44	100.00

(3) 遊離成分 非解離成分			
成分名		ミリグラム	ミリモル
硫酸	H ₂ SO ₄	0.1未満	0.00
メタ亜ヒ酸	HAsO ₂	0.1未満	0.00
メタケイ酸	H ₂ SiO ₃	22.0	0.28
メタホウ酸	HBO ₂	0.1未満	0.00
リン酸	H ₃ PO ₄		
非解離成分計		22.0	0.28

(4) その他の微量成分		
成分名		ミリグラム
総砒素	As	0.002
銅イオン	Cu	0.005
総クロム	Cr	0.001未満
総水銀	Hg	0.0002未満
鉛イオン	Pb	0.001未満
カドミウムイオン	Cd	0.001未満
亜鉛イオン	Zn	0.010

溶存物質合計(ガスを除く)	0.13g/kg
成分合計	0.13g/kg

- 分析年月日 平成30年10月31日
- 分析者 株式会社東京水質研究所(19東京都温泉分析第2号)

浴用の方法及び注意

温泉の浴用は、以下の事項を守って行ってください。

- 入浴前の注意
 - 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。
 - 過度の疲労時には身体を休めること。
 - 運動後30分程度の間は身体を休めること。
 - 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、一人での入浴は避けることが望ましいこと。
 - 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。
 - 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。
- 入浴方法
 - 入浴温度
高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。
 - 入浴形態
心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。
 - 入浴回数
入浴開始後数日間は、1日当たり1～2回とし、慣れてきたら2～3回まで増やしてもよいこと。
 - 入浴時間
入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3～10分程度とし、慣れてきたら15～20分程度まで延長してもよいこと。
- 入浴中の注意
 - 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。
 - 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。
 - めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。
- 入浴後の注意
 - 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心掛けること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。)
 - 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。
- 湯あたり
温泉療養開始後おおむね3日～1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。
- その他
浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。

その他

- 泉温が低いため、加温しています。
- 湯量が少ないため、加水しています。
- 温泉資源保護及び衛生管理のため、循環ろ過装置を使用していますが、浴槽水は毎日換水しています。
- 衛生管理のため、循環ろ過の過程で塩素系薬剤を使用しています。

温泉の成分

- 1 源泉名 村山温泉
 2 泉質 メタほう酸
 3 泉温 22.7℃
 4 温泉の成分 1kg中に含有する成分、分量及び組成

(1) 陽イオン

成分名	イオン	ミリグラム	ミリバル	ミリバル%
水素イオン	H ⁺	0.1未満	0.00	0.00
リチウムイオン	Li ⁺			
ナトリウムイオン	Na ⁺	29.2	1.27	90.15
カリウムイオン	K ⁺	0.4	0.01	0.73
アンモニウムイオン	NH ₄ ⁺			
カルシウムイオン	Ca ²⁺	2.0	0.10	7.11
マグネシウムイオン	Mg ²⁺	0.2	0.02	1.17
アルミニウムイオン	Al ³⁺	0.1未満	0.00	0.00
マンガン(Ⅱ)イオン	Mn ²⁺	0.1未満	0.00	0.00
鉄(Ⅱ)イオン	Fe ²⁺	0.1未満	0.00	0.00
鉄(Ⅲ)イオン	Fe ³⁺	0.2	0.01	0.84
銅(Ⅱ)イオン	Cu ²⁺			
鉛イオン	Pb ²⁺			
亜鉛イオン	Zn ²⁺			
カドミウムイオン	Cd ²⁺			
ストロンチウムイオン	Sr ²⁺			
バリウムイオン	Ba ²⁺			
クロムイオン	Cr ³⁺			
陽イオン計		32.0	1.41	100.00

(3) 遊離成分

非解離成分

成分名	化学式	ミリグラム	ミリモル
硫酸	H ₂ SO ₄	0.1未満	0.00
メタ亜ヒ酸	HAsO ₂	0.1未満	0.00
メタケイ酸	H ₂ SiO ₃	22.0	0.28
メタホウ酸	HBO ₂	0.1未満	0.00
リン酸	H ₃ PO ₄		
非解離成分計		22.0	0.28

溶存ガス成分

成分名	化学式	ミリグラム	ミリモル
遊離二酸化炭素	CO ₂	0.1	0.00
遊離硫化水素	H ₂ S	0.1未満	0.00
溶存ガス成分計		0.1	0.00

5 分析年月日 平成30年10月31日

6 分析者 株式会社東京水質研究所(19東京都温泉分析第2号)

(2) 陰イオン

成分名	イオン	ミリグラム	ミリバル	ミリバル%
フッ素イオン	F ⁻	0.1未満	0.00	0.00
塩素イオン	Cl ⁻	2.7	0.08	5.30
硫化水素イオン	HS ⁻	0.1未満	0.00	0.00
硫化物イオン	S ²⁻	0.1未満	0.00	0.00
チオ硫酸水素イオン	HS ₂ O ₃ ⁻			
チオ硫酸イオン	S ₂ O ₃ ²⁻			
硫酸水素イオン	HSO ₄ ⁻	0.1未満	0.00	0.00
硫酸イオン	SO ₄ ²⁻	2.5	0.05	3.62
メタ亜ヒ酸イオン	AsO ₂ ⁻	0.1未満	0.00	0.00
炭酸水素イオン	HCO ₃ ⁻	57.5	0.94	65.38
炭酸イオン	CO ₃ ²⁻	6.9	0.23	15.96
メタケイ酸水素イオン	HSiO ₃ ⁻			
メタケイ酸イオン	SiO ₃ ²⁻			
メタホウ酸イオン	BO ₂ ⁻	5.3	0.12	8.65
水酸イオン	OH ⁻	0.3	0.02	1.10
リン酸二水素イオン	H ₂ PO ₄ ⁻			
リン酸水素イオン	HPO ₄ ²⁻			
リン酸イオン	PO ₄ ³⁻			
沃素イオン	I ⁻			
臭素イオン	Br ⁻			
亜硝酸イオン	NO ₂ ⁻			
硝酸イオン	NO ₃ ⁻			
陰イオン計		75.2	1.44	100.00

(4) その他の微量成分

成分名	化学式	ミリグラム
総砒素	As	0.002
銅イオン	Cu	0.005
総クロム	Cr	0.001未満
総水銀	Hg	0.0002未満
鉛イオン	Pb	0.001未満
カドミウムイオン	Cd	0.001未満
亜鉛イオン	Zn	0.010

溶存物質合計(ガスを除く)	0.13g/kg
成分合計	0.13g/kg

浴用の方法及び注意

温泉の浴用は、以下の事項を守って行ってください。

1 入浴前の注意

- (1) 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。
- (2) 過度の疲労時には身体を休めること。
- (3) 運動後30分程度の間は身体を休めること。
- (4) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、一人での入浴は避けることが望ましいこと。
- (5) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。
- (6) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。

2 入浴方法

- (1) 入浴温度
高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。
- (2) 入浴形態
心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。
- (3) 入浴回数
入浴開始後数日間は、1日当たり1～2回とし、慣れてきたら2～3回まで増やしてもよいこと。
- (4) 入浴時間
入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3～10分程度とし、慣れてきたら15～20分程度まで延長してもよいこと。

3 入浴中の注意

- (1) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。
- (2) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。
- (3) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

4 入浴後の注意

- (1) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心掛けること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。)
- (2) 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。

5 湯あたり

温泉療養開始後おおむね3日～1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

6 その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。